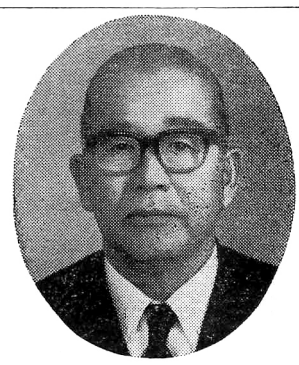
かどがわ
町報
第180号
発行所
宮崎県門川町
門川町役場
電話③1140番
印刷所
宮崎県門川町
工藤印刷
電話③1143番
③2276番

あけまして
おめでとうございます
役場職員一同

年頭のご挨拶

門川町長　金丸次蔵



皆さん明けましておめでとうございます

昨年度におきましては、町政全般に亘り協力を得て厳しい情勢であつたにもかかわらず、ここに新年を迎えることができましたことを心から感謝申し上げます

皆さん方にも、それぞれの立場で苦しい体験をなされたと思いますが、お元気で新春を迎えられ、新年に対する決意を新らたにされておることとお慶び申し上げます。さて過ぎ去つた一年を顧みますと、前々年に引続き情勢は一向に好転せず、不景気はいよ〳〵深刻化し、倒産する企業或は操短のやむなきに至る企業等続出し、国民生活の不安はつのるばかりでありましたこれは当然、町政にも大きな影響をもたらし計画の変更、事業の縮少等住民福祉の向上に障害となつたものも少なくないのであります

今日の政治経済は一国だけの問題でなく、世界的な関連を持つことであることも認識していただいて、お互が協力して、この難関は乗り越えなければならないのではないかと思います。

現在の国情も決して明るいものではなく、何時になつたら国民生活も安定するのか人も予想はできませんが、こんな時、私達はどう対処したらよいのか、私は人それぞれがその立場を堅持して行く以外にないものと考えます。それにしても

この厳しい情勢の中では非常に努力と創意工夫が求められるところであります

農業において、漁業において、商工業において政治いてすべての面で強く要請される要素であります人倫を正し、環境を整備することは人間の幸福の最大なるものであります。

門川町が昭和四十七年度から人づくり運動を通じ、豊かな住みよい町を造ることを町民運動の大きな柱としていることも結局、目的はここにあるのでありますが、これも又、口にするは易く実行は仲々至難な問題であります。全住民の意欲の上にこそその成果が実るのであります。こう申しますと、すべての責任を住民に転嫁しているようでありますが、決してそうではなく、信頼できる行政のものとしてこそ住民の意欲が盛り上つてくるものだということであり、町政を担当する者としてその責任を痛感しておるものであります。

昨年は町制施行四十周年町長、町議選等町としても想い出多い年でありました

町制施行四十周年の時に申し上げましたように、私達の先輩諸賢の辛酸を思い起しこの苦難の時代にしようとすることこそ、その意義があるものと思われます

本年度は更に厳しい年であり、今日の町の事業計画は全部に亘つて見直しをする必要にせまられています

新年度予算即ち、町の事業計画は三月の定例議会に提案いたしますが、前述の如く厳しい内容にならざるを得ないと思いますし、従つて、皆さんの要望にどれだけ応え得るか現段階で明確に申し上げられませんがどうか現実を充分認識せられ御協力方お願い申し上げます。

勿論、町政に対する御批判について卒直に申し述べていただくことは、私の強く望むところでありますし町政の前進に密接につながるものでありますので、充分お聞かせ戴きたいのでありますが、町の行政力にも限度がありますので、その点はご納得して戴きたいと存じます。

去年は苦しかつたが、今年こそは皆さん、はりきつておられるところへくどくどしいことを申し上げ大変失礼とは存じますが、新年のご挨拶といたします。

新年のごあいさつ

門川町議会議長　山本惣太郎

あけまして
おめでとうございます

輝かしい希望と期待に満ちた昭和五十一年の新春を迎え皆様に謹んで年頭のお慶びを申し上げますとともに、本年も健康で幸せ多い明るい年でありますよう祈念いたします。

顧りみますれば、昭和五十年の星霜を累ねてまいりましたが、まことに多事多難のうちに過ぎ去り今日では我が国は経済大国として国際的に大きな地位を占めるにいたりました。しかしその反面経済偏重のひづみから生じた公害は、大きな社会問題となり又石油ショックに端を発した経済の急変による物価の高騰、各種工場の操短、倒産、失業者の急増など社会不安の要因が次々と発生し、昨年末には、公労協の長期にわたるスト権スト問題など政治経済の各分野で重大な年でありましたが、これらの諸問題は、本町にもあらゆる面に波及し、深刻化し、一方においては、行政に対する住民要望は、ますます複雑多様化し、これらの諸情勢に対応するためには、執行部はもとより、議会としても行政力の強化を図らなければならないところであります。

かかる世相の中では、行財政的に規模の小さい地方自治体では、住民の行政需要に充分対応していくことは、極めて困難であるところから、隣接市町村間で相互に関連する事務について共同で処理する、いわゆる広域行政方式が重要な課題となり、門川、日向、延岡の二市一町の議会でも協議会を結成し真剣な討議を重ねているところであります特に門川町は、新産都市の中枢地として、計画的に都市計画事業や、道路交通網の整備事業を執行部と一体となつて推進し、又、細島臨海工業地帯に大企業の進出が活発化するに伴い、地理的条件から、もらい公害発生のおそれもあり、住民の生活環境を守るため、公害対策の諸問題にも意欲的に取組み真剣な調査と研究を続けておるところであります。

今更申し上げるまでもなく議会は、住民を代表して住民の意志を町政に反映させ議会の権能を充分に発揮して政策を決定し、これが執行にあたつては、執行部局に協力して行政目的の達成に努め、もつて住民の信託に応えていかなければならない責務を負わされているのであります。

従つて議会活動は住民福祉に大きな影響をもたらすものであり、今日の情勢は極めて厳しい様相を呈しておるとはいえ、本町の立地条件や特殊性を生かし、更に先人諸賢の遺訓を銘記し、自然と文化の調和を基調として時代にマッチした福祉産業、教育文化の諸政策を模索し、強力に町政を推進してゆく決意を新らたにするものであります。

不景気は依然として進行し本年度学卒者は就職難に苦しんでいる厳しい現実は、終幕に至るまでには、まだまだ時間がかかりそうな気がいたします。

お互いに苦難の年であることを覚悟し、新しい年に対処してゆかなければなりません。

どうか皆さん健康第一にそれ〴〵の道を邁進せられんことを祈念して年頭のご挨拶といたします。

昭和五十一年度 保育所入所児 申込受付中

昭和五十一年四月から保育所に入所希望の方は、左記により申込書を提出下さるようお知らせいたします

一、保育所へ入所できる基準

保育所入所のできる児童は、主に母親のいない家庭又は母親が仕事に従事して児童の保育ができない場合のことで、①～④までに該当する者。

但し、その家庭の母親以外の人が、児童の保育ができる場合は除かれます。

①家庭外労働
児童の母親が昼間家庭外で仕事をする場合児童の保育ができないとき。

②家庭内労働
児童の母親が昼間家庭で児童とはなれてその児童の保育ができないとき。

③母親のいない家庭
母親の死亡、行方不明、拘禁などの理由により母親がいない家庭。
但し、里親の家庭の里子児童は除かれます。

④病人の看護人等
その児童の家庭に長期にわたり病人や障害者がいるため、母親がいつも看護にあたり、その児童の保育ができないとき。

二、保育所入所申込の添付書類

①昭和五十年度分町民税課税額証明書

②昭和五十年度分固定資産課税額証明書
①～②役場税務課にて証明できます。

③昭和五十年分所得で事業所発行の源泉徴収票

④農業、漁業、自営業その他の者で源泉徴収票のとれない方は、三月二十日まで、所得税及び所得額の証明書

⑤母親が家庭内で就労している場合は、地元民生児童委員からの家庭内就労証明書

⑥母親が家庭外で就労している場合は、雇主の就労証明書

※職業のあるものは、勤務先を具体的に記入するとともに母親の職業、勤務先を必ず記入して下さい

三、申込受付期間
昭和五十一年一月十三日～二月十四日まで

四、申込書提出先
各通園区域保育所へ提出下さい。

五、申込書
申し込用紙は各保育所に準備してあります。

六、定員及び通園区域
五十鈴保育所（一二〇名）
小松、小園、城屋敷、五十鈴、南町、上の町本町一部
平城保育所（一二〇名）
平城東、平城西、栄ケ丘、中山
中央保育所　（九〇名）
東栄町、西栄町、竹名中村、本町一部
門川保育所　（九〇名）
浦部全区域、本町一部
草川保育所　（六〇名）
加草全区、庵川西、庵川東、牧山

※各保育所の申込人員と定員の関係で、希望保育所に入所できない場合もあります。

※記入要領は、申込用紙に記入されておりますのでよく読んでいただきまちがいのないようお願いします。

尚、詳細については各保育所、又は役場住民課へお問い合わせ下さい。

河川の美化　不用ビニールは焼却しましょう

自動車安全運転センター宮崎県事務所が開設されました

第七五国会で自動車安全運転センター法（昭和五十年法律五七号）が成立しました。それにより中央にセンター本部が設置され各都道府県にはセンター都道府県事務所が設置されます。

◎仕事の内容

1 交通事故関係者に対して交通事故証明書を交付する。

2 交通違反や、交通事故を起して行政処分の直前に達した人に点数のないことを通知して安全運転を励行させる。

3 運転免許所持者あるいはこれから運転免許を受けようとする人に対し免許上の経歴等について証明書を交付する。

4 交通事故の事例分析調査研究を行う。

5 免許取得後に暴走族等の危険性のある運転者に更に安全性を身につける安全教育を行う。

こと等が主な仕事の内容であります。

このセンターが発足しますと例えば交通事故証明の発給では、宮崎の人が東京で事故を起した場合でも、事故証明書を宮崎らかでも請求ができ、早く証明書が届くようになります。

◎各種証明書のもらい方

1 交通事故の加害者、被害者及びこれらの人から委任を受けた人は、申請用紙に手数料（交通事故証明書は四〇〇円、運転記録証明書、累積点数証明書、運転免許経歴証明書無事故無違反証明書各六〇円）を添えてセンター事務所に直接申請するか又は最寄りの郵便局で郵便振替制度を利用してセンターに郵送請求すればセンター事務所が警察の資料を調査して本人に直接郵送交付することになります。

2 申請用紙は警察署、警察官派出所、駐在所、保険会社、農協などに備付けられていますので、ここでもらってください。

3 センターの仕事は、昭和五一年一月一日から開始されます。なおそれ以前の交通事故についても一月一日からはセンター事務所に請求してください。

◎宮崎県事務所の所在地

〒八八〇　宮崎市阿波岐原町前浜四二七六番五　運転免許課内

◎事務所の名称

自動車安全運転センター宮崎県事務所

電話二九－三四五六
二三－二一四一
内線　四六五

国民年金等の年金受給権を担保とする小口の貸付制度について

一、年金福祉事業団法第十七条第四号の規定に基づき、厚生年金保険等の年金受給権者に対し、その年金受給権を担保として、小口の融資を行うものである。

二、貸付けの相手方
厚生年金保険、船員保険及び国民年金（福祉年金を除く。）の年金受給権者とする。

三、貸付金の額
一〇万円以上七〇万円までの額とし一万円未満の金額は貸付けないものとする。

四、貸付金の利率
貸付金の利率は年、八歩とする。

五、貸付金融機関
宮崎銀行、宮崎相互銀行、及び、信用金庫です。

六、貸付申込期間
国民年金、昭和五十一年二月二日から昭和五十一年二月十四日まで。
船員保険、昭和五十一年一月五日から昭和五十一年一月十六日まで、

七、貸付を受けようとする受給権者は金融機関の窓口で年金受給権の有無を確認するための証明書の提出を必要とします。
証明書の交付は社会保険事務所で行います。
詳しい事は住民課年金係におたずねください。

昭和五十一年度新入学児童調査について

該当児童
昭和四十四年四月二日より昭和四十五年四月一日までに生まれた者

昭和五十一年度の新入学児童につきましては、住民基本台帳により調査し、只今左記の通り名簿作成中であります。転入、転出、その他調査の時点などの関係で調査もれ、住所、氏名（文字）のあやまりのある場合は当教育委員会宛早目にご連絡くださるようお願いします。

入学式は四月上旬になります。その間一月下旬から二月下旬にかけて新入学児童の健康診断と知能検査を実施いたしますが、その期日については、後日保護者宛お知らせいたします。

尚身体その他の事情で本年度入学が困難である場合は、就学猶予、免除、養護学校（施設）への手続き等についてご相談したいと存じますので、教育委員会までおいで下さい。

児童氏名	保護者氏名
松瀬	
田中　正英	正之
松田　郁美	修一
松崎　光	五治
三ケ瀬	
川田　武	善男
河野　道有	太志
寺原　淳	重善
鍋島　近子	満
本田　清子	和己
松本　輝	利幸
上井野	
神井　英樹	勝
黒木真奈美	勝義
黒木つるよ	明
田中　光恵	正利
橋口　貴志	順次
大内原	
橋満真由美	正二
小松	
小池由香里	隆一
小池　英和	太郎
峰　豪紀	毅
水永　新一	大和
小園	
小林　俊晴	靖弘
高橋　誠二	三男
米良　敦子	民男
城屋敷	
小野　博史	管雄
金田　裕次	一男
木下　奈美	親旺
田原加代美	隆治
米良　梨佳	宣
安田　厚生	新
安田　綾美	幸雄
中山	
甲斐　誠	規郎
金丸　美香	享
佐藤　敏彦	知義
橋口　浩行	重喜
米良加奈子	康功
竹名	
河野つるよ	広志
河野　巧	満生
佐藤　隆徳	冬美
奈須　貴子	定夫
吉田さおり	重利
松田　稔	末広
五十鈴	
江藤　明美	勝広
金丸　浩三	米敏
金丸　和幸	福幸
金丸まゆみ	保
金丸　悦子	和俊
黒木　唱子	秋雄
児玉　洋子	忠之
児玉　久美	義春
児玉　秀智	力
佐藤　真	恵治
佐藤　美和	和邦
長友美律子	誠
牧野　定人	美芳
山中　秀明	和子
南町	
一木　亜矢	隆一
池田　敬二	義広
榎本　英雄	昌文
岡田　明	俊明
小野　徳裕	紀久代
金丸　智朗	一弘
金丸　仁	幸一
柏田　利佳	紘一
黒木　美樹	京一
椿原　明美	稔
久保園紀子	仁次郎
西府　茂樹	安幸
高見　慎一	宗冬
高橋　美香	計広
中島　保則	未男
日高　初美	美春
藤田　宏美	洋太
福谷えり子	秋
松永　三葉	勢一
松本さゆり	義輝
黒木　哲也	東
上の町	
大木　憲一	田中　勉
金丸　明子	長友由美子
黒木　昇子	本田世理子
黒木　博	水永　里美
児玉　国博	山口　沙織
塩川　正隆	**栄ケ丘**
萩原　裕子	請関　優充
福永　文祥	甲斐　健二
松田　若子	河田　一美
桝田美和子	染田　緑
松沢　総子	滝本　雷太
水永　倫子	戸高　康一
米良ゆかり	中野　美香
山倉　春菜	鍋島　美加
吉田　博美	早瀬　時子
吉永　智保	本田　久代
長友　祥子	**平城東**
本町	
上田　尚美	池田　律子
小野　朱美	岸本　静香
大江　里美	黒木　豪
黒木　順子	後藤　昭弘
坂元　香	田中喜久美
高橋　泰洋	高橋　佐織
田村　智子	山本　光弘
長友　英治	山田　和義
奈須　崇人	山下　直子
松井　尚子	山本まゆみ
水永　紀子	柳田　美架
吉野　英則	中村　昭彦
東栄町	**平城西**
岩田　真一	青木　圭司
壱岐　直美	岩佐　隆史
大田　幸司	岩井　正隆
河野　徳男	宇和田佳子
河野　静香	小川　暁子
川崎　聡	鎌田　次郎
黒木　久美	黒木　豊美
熊坂　雄造	斉藤由香子
黒木　哲	坂本　亜矢
古谷　洋子	酒井　純一
松井　裕二	四宮　守人
水永　尚子	須股　浩
吉野　紀子	田原　克憲
末広　重利	深田　明子
日向市　定夫	武藤　直美
庵川東　勝広	村木　正史
上井野　敏光	矢野　憲吾
中村　哲茂	吉塚　聡子
西栄町　秋雄	渡木　浩二
日向市　徹郎	黒木　真実
庵川東　恒行	後藤　敏之
上井野　和幸	**上納屋一区**
中村　茂	河野　博典
柳田　利秋	河野　智子
山本　利治	奈須　正樹
山下　峰生	矢野　充
山田　健治郎	**上納屋二区**
後藤　俊満	粟田　幸子
田中喜久美	河野　美鈴
高橋　一紘	藤島　信哉
山本　修二	福田久美子
山田　志保子	松田　信之
下　修治郎	松下　友美
山田　和義	吉塚　久美
山本　光弘	安田　裕幸
高橋　佐織	上納屋三区
後藤　昭弘	井端扶美代
黒木　拓巳	黒木　砂織
岸本　豪	黒田有美子
池田　静香	長渡　靖憲
山田　節郎	小林　泰司
田中　信義	肥田木玲子
黒木　英世	**旭町**
後藤　政昭	日高　義継
田中　安三郎	森　優子
高橋　孝	山口　史郎
小川　衛	**後向**
宇和田　行雄	右松真寿美
岩井　英雄	山下　敦子
岩佐　茂広	**中尾**
平城西　久紀	黒田　珠子
青木　国昭	児玉　知子
黒木　政昭	清水　栄広
須股　萬義	田中　沙織
四宮　甲斐	山田　利恵
酒井　健二	田端　忠広
坂本　河田	**下納屋**
斉藤　一美	勇美　千鶴
鎌田　末夫	大森　博明
黒木　滝本	河野　順子
小川　雷太	黒木香代子
岩佐　康一	黒田　幸子
岩井　戸高	黒木　幸夫
宇和田　雅	佐野田麻理
岩佐　繁誉	坂本　一美
青木　年晴	城口千恵美
黒木　信義	奈須真由美
田中　征一郎	浜口　昌
後藤　隆	日高　章
後藤　裕介	松田　隆志
黒木　孝彦	山下みどり
田中　昭二	**中村**
高橋　黒木	川崎　清子
小川　博	川崎　洋
宇和田佳子	幸津　清美
岩井　塩川	佐野　友美
岩佐　正隆	塩月理恵子
青木　萩原	高橋三佐子
須股　裕子	高橋　一一
田原　文祥	中田　俊一
深田　福永	渡辺　宣久
武藤　松田	**加草一区**
村木　若子	津島　浩二
矢野　桝田美和子	山田　孝子
吉塚　松沢	**加草二区**
渡木　総子	安藤　松代
黒木　水永	金丸　健作
後藤　倫子	柏田　和子
黒木　山倉	梶谷　千秋
豪　春菜	甲斐　鈴恵
黒木　吉田	後藤　勝幸
拓巳　博美	矢野　洋文
滝本　吉永	**加草三区**
雷太　智保	真野　勝美
染田　長友	安藤　清
河田　祥子	上納屋三区
滝本　昭二	井端扶美代
戸高　黒木	黒木　砂織
中野　昭	黒田有美子
高橋　彦	長渡　靖憲
後藤　孝	小林　泰司
田中喜久美	肥田木玲子
鍋島　美加	**旭町**
早瀬　時子	日高　義継
本田　久代	森　優子
平城東	山口　史郎
池田　律子	**後向**
岸本　静香	右松真寿美
黒木　豪	山下　敦子
後藤　昭弘	**中尾**
黒木　拓巳	黒田　珠子
高橋　佐織	児玉　知子
山本　光弘	清水　栄広
山田　和義	田中　沙織
山下　直子	山田　利恵
山本まゆみ	田端　忠広
柳田　美架	**下納屋**
中村　昭彦	勇美　千鶴
平城西	大森　博明
青木　圭司	河野　順子
岩佐　隆史	黒木香代子
岩井　正隆	黒田　幸子
宇和田佳子	黒木　幸夫
小川　暁子	佐野田麻理
鎌田　次郎	坂本　一美
黒木　豊美	城口千恵美
斉藤由香子	奈須真由美
坂本　亜矢	浜口　昌
酒井　純一	日高　章
四宮　守人	松田　隆志
須股　浩	山下みどり
田原　克憲	**中村**
深田　明子	川崎　清子
武藤　直美	川崎　洋
村木　正史	幸津　清美
矢野　憲吾	佐野　友美
吉塚　聡子	塩月理恵子
渡木　浩二	高橋三佐子
黒木　真実	高橋　一一
後藤　敏之	中田　俊一
上納屋一区	渡辺　宣久
河野　博典	**加草一区**
河野　智子	津島　浩二
奈須　正樹	山田　孝子
矢野　充	**加草二区**
上納屋二区	安藤　松代
粟田　幸子	金丸　健作
河野　美鈴	柏田　和子
藤島　信哉	梶谷　千秋
福田久美子	甲斐　鈴恵
松田　信之	後藤　勝幸
松下　友美	矢野　洋文
吉塚　久美	**加草三区**
安田　裕幸	真野　勝美
安夫　章男	安藤　清
上納屋三区	加草四区
井端扶美代	浜田　英一
黒木　砂織	請関　清治
黒田有美子	請関　郁子
長渡　靖憲	請関　新
小林　泰司	金丸　里美
肥田木玲子	甲斐　定美
旭町	黒木　勝彦
日高　義継	**加草五区**
森　優子	佐藤　秋雄
山口　史郎	浜田　義明
後向	浜田ひとみ
右松真寿美	牧田　博子
山下　敦子	**庵川西**
中尾	岩田　増夫
黒田　珠子	岩切　伸江
児玉　知子	岩田　和行
清水　栄広	稲田　英二
田中　沙織	小川　恵美
山田　利恵	川端潤一郎
田端　忠広	黒木　増美
下納屋	久保崎清子
勇美　千鶴	黒木美保子
大森　博明	黒木　哲也
河野　順子	小林　一三
黒木香代子	富山美保子
黒田　幸子	浜田かおる
黒木　幸夫	浜田　郁美
佐野田麻理	安田喜久美
坂本　一美	安田　学
城口千恵美	和田美和子
奈須真由美	和田　功二
浜口　昌	和田　正昭
日高　章	安田　修
松田　隆志	**庵川東**
山下みどり	岩切　美紀
中村	小川美千代
川崎　清子	黒木　孝紀
川崎　洋	曽根田晋一
幸津　清美	戸高　努
佐野　友美	山田　秀弘
塩月理恵子	**幸一郎**
高橋三佐子	黒木　重秋
高橋　一一	本田　正伸
中田　俊一	川崎　昭子
渡辺　宣久	白木　琢
加草一区	林田　美子
津島　浩二	原田　峰幸
山田　孝子	中村　久子
加草二区	岩切　信功
安藤　松代	日向市　庵川東
金丸　健作	〃　加草四
柏田　和子	日向市　城屋敷
梶谷　千秋	小　園
甲斐　鈴恵	五十鈴　平城西
後藤　勝幸	平城東　東栄町
矢野　洋文	東栄町　平城東
加草三区	平城東　治夫
真野　勝美	平城西　康文
安藤　清	五十鈴　慎家

戸籍の窓

出生おめでとう

子の氏名	父母の名	住所
日高　祐子	史和	小園
園田　智治	悟	南町
柳田　拓	教一	下納屋
下田　和美	孝一	庵川西

男　一三七名
女　一五七名
合計　二九四名

ご結婚おめでとう

黒木　重秋	都城市
児玉　珠美	本町
本田　正伸	三ケ瀬
和泉　満義	本町
川崎　昭子	小園
白木　琢	五十鈴
林田　美子	平城西
原田　峰幸	東栄町
中村　久子	平城東
岩切　信功	日向市
黒木　正義	庵川東
川崎　仁子	日向市
日向市　中村	〃
庵川東　利雄	加草四
日向市　川崎	〃
日向市　藤一	日向市
上井野　実	日向市
西栄町　松川	中山
中城　康彦	日向市
中山　定代	日向市
日向市　中城	〃
上ノ町　神戸	西栄町
東栄町　保美	〃
上ノ町　児玉	西栄町
東郷町　長友	日高
上ノ町　秀雄	日向市
東郷町　鉛木あや子	日向市
庵川西　黒木	奈須
中山　勝彦	永任
尾末東　奈須多美子	奈須
中尾　坂本	浜砂
延岡市　奈多	大津
上ノ町　光夫	〃
延岡市　三浦	西栄町
上納屋　谷口	中園
延岡市　一成	日高
中山　伸子	山本
日向市　伊福	奈須
延岡市　福永	中島
中山　満	日高
日向市　黒木	浜元
日向市　伊福	朝倉
日向市　恵子	谷川
日向市　甲斐	浜元
日向市　満	朝倉
日向市　谷口	谷川
日向市　三浦	浜元
日向市　一成	朝倉
日向市　伸子	谷川
日向市　庵川東	浜元
日向市　日向市	朝倉
日向市　日向市	谷川
日向市　日向市